

「学年別漢字配当表」の字種をめぐって －「環」、「尺」－

丹 保 健 一

The research of the primary school kanji list - “環” “尺” -

Kenichi TAMBO

はじめに

2010（平成22）年11月に「常用漢字表」の改訂があり、「学年別漢字配当表」（以下、「学年別漢字配当表」）に含まれている漢字を「学習漢字」と称することがある。）の見直しも行われるものと思われる。その際に先ず取りかからなくてはならないのは字種の選定であろう。

「学習漢字」の字種選定については、除いた方がよいと思われる字種として「蚕」を、新たに加えた方がよいと思われる字種として「甘」を指摘した（丹保（2011 a, 2011 b)）。しかし、「蚕」「甘」以外にも検討を要する字種は少なくない。

本論文では、社会の変化によって使用されることが多くなったと思われる「環」（非「学習漢字」）と、逆に使用頻度が少なくなったであろうと思われる「尺」（「学習漢字」）を取り上げた。この二つの字種についての各種のデータを調査分析した結果、「環」は「学習漢字」とし、「尺」は「学習漢字」から除くべきであるとの結論に達した。

調査・分析は次のような手順で行った。

- ① 字種選定においてどのような観点が重視されてきたかを、「当用漢字別表」（「教育漢字」）、旧「常用漢字表」、現行「常用漢字表」の字種選定基準によって確認した。
- ② 出現頻度を「現代日本語書き言葉均衡コーパス」（以下、「BCCWJ」と称することがある）を対象として調査した。現行の「常用漢字表」作成における出現頻度の調査資料である「書籍860冊分の凸版組み版データ」（「漢字出現頻度数調査（3）」：漢字小委員会参考資料、注3に解説あり）も参照した。
- ③ 出現数の変化を1985年から2011年までの新聞記事（朝日新聞）によって調査した。
- ④ 造語力については、「環」「尺」を含む語を各種教育基本語彙表（『教育基本語彙の基本的研究』）によって調査した。
- ⑤ 教科等の必要性については、『小学校学習指導要領』及び「教科書コーパス語彙表」（注1）によって調査した。
- ⑥ 児童の漢字習得の難易度については、近年実施された大規模な調査である有元（2006）「児童生徒の学習漢字と語彙の習得に関する基礎的調査研究」のデータによった。
- ⑦ ①～⑥によって、「環」「尺」が「学習漢字」として妥当性について考察を加えた。

1. 字種選定基準について

1.1. 「当用漢字別表」作成における字種選定基準

「当用漢字別表（教育漢字）」の字種選定基準は次のようにまとめることができます。（注2）

＜（当用漢字別表・教育漢字）に入れるもの＞

- 1 日常の社会生活に直接の関係をもち、一般国民に親しみの深いもの
- 2 熟語構成の力が強く、それが広い範囲に及んでいるもの
- 3 広く世に行われている平明な熟語の構成成分で、対照的意義を表わすそれぞれのもの

＜（当用漢字別表・教育漢字）に入れないもの＞

- 1 時代主流から遠ざかっているもの
- 2 階層的のもの、局所的なもの
- 3 専門用語にしか関係をもたないもの

＜その他＞

負担についても考慮する。

（「当用漢字別表（教育漢字）」に関する主査委員長報告」より）

1.2. 旧「常用漢字表」における字種選定基準

旧「常用漢字表」の字種選定の考え方は、前文につぎのように記されている。

＜昭和56年3月23日国語審議会答申「常用漢字表」前文＞

字種や音訓の選定に当たっては、語や文を書き表すという観点から、現代の国語で使用されている字種や音訓の実態に基づいて総合的に判断した。主な考え方は次のとおりである。

- 1 使用度や機能度（特に造語力）の高いものを取り上げる。なお、使用分野の広さも参考にする。
- 2 使用度や機能度がさほど高くないでも、概念の表現という点から考えた場合に、仮名書きでは分かりにくく、特に必要と思われるものは取り上げる。
- 3 地名・人名など、主として固有名詞として用いられるものは取り上げない。
- 4 感動詞・助動詞・助詞のためのものは取り上げない。
- 5 代名詞・副詞・接続詞のためのものは広く使用されるものを取り上げる。
- 6 異字同訓はなるべく避けるが、漢字の使い分けのできるもの及び漢字で書く習慣の強いものは取り上げる。
- 7 いわゆる当て字や熟字訓のうち、慣用の久しいものは取り上げる。

なお、当用漢字表に掲げてある字種は、各方面への影響も考慮して、すべて取り上げた。

1.3. 現行「常用漢字表」における字種選定基準

現行「常用漢字表」の字種選定基準は次のようにまとめることができる。

（1）字種選定の考え方・選定の手順

一般社会においてよく使われている漢字（＝出現頻度数の高い漢字）を選定する。選定過程では、以下の①を基本として、②以下の項目についても配慮しながら、単に漢字の出現頻度数だけではなく、様々な要素を総合的に勘案して選定していくことを基本方針とする。

- ① 教育等の様々な要素はいったん外して、日常生活でよく使われている漢字を出現頻度数調査の結果によって機械的に選ぶ。
 - ② 固有名詞専用字ということで、これまで外されてきた「阪」や「岡」等についても、出現頻度数が高ければ最初から排除はしない。
 - ③ 出現頻度数が低くても、文化の継承という観点等から、一般の社会生活に必要と思われる漢字については取り上げていくことを考える。
 - ④ 漢字の習得の観点から、漢字の構成要素等を知るための基本となる漢字を選定することも考える。
- ①の考え方にに基づいた漢字集合を特定するために、以下のような「漢字出現頻度数調査」を実施する。(注3)

(2)「字種選定に際しての基本的な考え方」

<入れると判断した場合の観点>

- ① 出現頻度が高く、造語力(熟語の構成能力)も高い
→ 音と訓の両方で使われるものを優先する(例: 闇、溺)
- ② 漢字仮名交じり文の「読み取りの効率性」を高める
→ 出現頻度が高い字を基本とするが、それほど高くなくても、漢字で表記した方が分かりやすい字(例: 謙遜の「遜」、堆積の「堆」)
→ 出現頻度が高く、広く使われている代名詞(例: 誰、俺)
- ③ 固有名詞の例外として入れる
→ 都道府県名及びそれに準じる字(例: 畿、韓)
- ④ 社会生活上よく使われ、必要と認められる
→ 新聞、雑誌等の出現頻度が低くても、必要な字(例: 元旦の「旦」)

<入れないと判断した場合の観点>

- ① 出現頻度が高くても、造語力(熟語の構成能力)が低く、訓のみ、あるいは訓中心に使用(例: 濡、覗)
- ② 出現頻度が高くても、固有名詞(人名・地名)中心に使用(例: 鷹、鴨)
- ③ 造語力が低く、仮名書き・ルビ使用で、対応できると判断(例: 醬、■)
- ④ 造語力が低く、音訳語・歴史用語など特定分野で使用(例: 菩、揆)

1.3. 字種選定の主たる基準

「当用漢字別表(教育漢字)」及び新旧「常用漢字表」の字種選択基準を見ると、「出現頻度」、「造語力(熟語構成力)」が大きな位置を占めていることが分かる。この外、習得の難易度、日常の生活・社会生活の必要度、音・訓の有無、分かりやすさ、固有名詞か否か等も考慮する必要がある。本論文では、出現頻度、造語力・語構成力、学習基本語彙(小学校において教科等を学習するうえで重要な語彙)に注目したい。

2. 「BCCWJ」における出現数

次に示したのは、「BCCWJ」における旧「常用漢字表」漢字(以下、「1945 kanji」と呼ぶことがある)の内、「学習漢字」出現数下位30字を示したものである。出現数は、DVD版「BCCWJ」のデータを筆者が作成したスクリプト(プログラム言語「Ruby」ではプログラムのことをスクリプトと呼んでいる)を用いて検索・算出したものである。(注4)

表 1. 「学習漢字」出現数下位 30 字

順位	字種	出現数	順位	字種	出現数	順位	字種	出現数
1439	恩 G 5	3789	1494	拾 G 3	3358	1653	朗 G 6	2223
1443	磁 G 6	3726	1514	俳 G 6	3187	1658	班 G 6	2173
1449	泳 G 3	3671	1515	寸 G 6	3181	1681	穀 G 6	2023
1452	径 G 4	3657	1521	綿 G 5	3155	1707	后 G 6	1913
1455	灰 G 6	3631	1522	潔 G 5	3130	1728	絹 G 6	1746
1472	机 G 6	3504	1581	貝 G 1	2689	1764	陞 G 6	1500
1476	肺 G 6	3475	1601	弓 G 2	2538	1766	笛 G 3	1479
1484	耕 G 5	3411	1614	鋼 G 6	2485	1777	汽 G 2	1396
1485	銅 G 5	3405	1616	尺 G 6	2466	1828	俵 G 5	1055
1491	孝 G 6	3364	1630	羊 G 3	2320	1915	蚕 G 6	443

※順位は旧常用漢字 1945 字中の順位、「G」右の数値は配当学年を示す。

表 1 を見ると、「尺」は 1616 位（旧常用漢字 1945 字中）であり、出現頻度としてはかなり低い。数値を見る限りにおいては「学年別漢字配当表」外漢字（以下、「非学習漢字」と称することがある）と考えるのが妥当であろう。

ちなみに、「BCCWJ」の「書籍」に限定すると、1528 位（旧常用漢字 1945 字中）、「毎日新聞データ集 '09 本社版」では、1838 位（旧常用漢字 1945 字中）、現行「常用漢字表」作成の際に用いたという漢字出現頻度基本データ「漢字出現頻度数調査（3）」では、全出現漢字中 1573 位である。

表 2. 「非学習漢字」出現数上位 30 字

順位	語	出現数	順位	語	出現数	順位	語	出現数
88	彼	131040	434	影	36946	539	含	28374
191	込	76397	435	環	36856	542	普	28205
218	違	67573	443	介	36284	554	婚	26674
252	施	59121	448	離	35897	560	僕	26142
291	及	52949	453	療	35573	562	援	26116
317	歳	49580	466	郎	34356	565	為	25916
345	項	45488	477	況	33538	570	突	25527
366	企	43431	481	振	33184	571	被	25506
386	御	41341	521	井	29439	573	響	25468
431	与	37339	535	般	28594	579	更	25017

※順位は旧常用漢字 1945 字中の順位

表 2 を見ると、「環」は旧常用漢字（1945 漢字）中 435 位である。出現頻度としてはかなり高い。数値を見る限りは「学習漢字」内漢字に含めるべき字種である。

ちなみに、「BCCWJ」の書籍に限定すると、534 位（旧常用漢字 1945 字中）、「毎日新聞データ集（2009 年度版）」では、487 位（旧常用漢字 1945 字中）、現行「常用漢字表」作成において用いたとされる漢字出現頻度基本データ「漢字出現頻度数調査（3）」では、「環」は 716 位（全出現漢字中）である。

4. 新聞に見られる出現数の変化

次に示したのは、「環」「環境」「尺」の朝日新聞（1985～1989 と 2007～2011）における出現数である。「人」～「生」は参考のためのものである。

表 3. 「環境」「環」「尺」の出現数の変化（朝日新聞）

	1985－89	2007－2011	増加率
環	12095	20083	<u>1.66</u>
環境	8807	15984	<u>1.81</u>
尺	360	401	<u>1.11</u>
人	107525	160058	1.49
一	168746	246590	1.46
日	169515	229889	1.36
年	112418	164049	1.46
大	122445	174109	1.42
分	87739	123932	1.41
出	104708	144496	1.38
行	89623	109322	1.22
中	113655	149050	1.31
生	69090	112285	1.63

※「聞蔵Ⅱ」（「朝日新聞オンライン記事データベース」）による。検索条件：朝刊、東京、本紙、本文、異体字を含む。検索日：2012 年 9 月 5 日

※1985－89、2009－11 は、各々1985 年から 5 年間、2007 年から 5 年間であることを示す。

※「人」～「生」は、出現率上位 10 位までの語。（注 5）新聞記事の量的増減の傾向を見るためのものである。10 語の平均増加率は 1.41 倍。

表 3 を見ると、「環」の増加率は、1.66 倍である。また、「環境」の出現数の増加率は、1.81 倍（8807 → 15984）である。全体的な新聞記事の増加傾向（旧常用漢字使用率上位 10 語の増加率の平均が 1.41 倍）を考慮しても、「環」「環境」の出現数が多くなっていることが分かる。

「尺」の増加率は、尺貫法（注 6）がすでに昭和 34（1959）年原則として廃止され、同 41（1966）年以後メートル法に統一されたこともありそれほど大きな変化とは言えない。しかし、「尺」の増加率 1.11 倍は旧常用漢字出現率上位 10 語の平均 1.41 倍であることから、今なお減少傾向（0.75 倍）にあることを示しているように思われる。

5. 各種教育基本語彙表に見られる該当字種を含む語について

先に指摘したように、漢字の字種選定において、出現頻度とともに重視されているのが、造語力・熟語構成力である。ここでは、各種教育基本語彙表の語彙によって見ていくことにしたい。

表 4. 各種教育基本語彙表に見られる「環」「尺」を含む語とランクー一覧

見出し	表 記	坂本	新坂本	田中	池原	児言研	中央	国研
あくじゅんかん	悪循環	C 3						
かんきょう	環境	C 1	C 1			小 A	C	○
かんじょう	環状	C 4						
じゅんかん	循環	B 1	B 1					○
じゅんかんき	循環器	C 3						
はなわ	花輪・花△環	A 2	A 2					
ゆびわ	指輪・指△環	A 2	A 2	⑤				◎
わ	輪・△環	A 1	A 1	②	1 B 2		A	○
さし	差し・指し・△尺		A 1					
しゃく	尺	B 1						
しゃくど	尺度	C 3	C 3					
しゃくはち	尺八	A 2	A 2					
しゅくしゃく	縮尺	C 2	C 2					
たんざく	短冊・短△尺	C 1	C 1					
まきじゃく	巻き尺	B 1	B 1					

※△は（旧）常用漢字外の音訓であることを示している。

※「坂本」、「新坂本」、「田中」、「池原」、「児言」、「中央」、「国研」、は各々、「阪本一郎『教育基本語彙』（1958）」、「阪本一郎『新教育基本語彙』（1984）」、「田中久直『学習基本語彙』（1956）」、「池原楯雄『国語教育のための基本語体系』（1957）」、「児童言語研究会『言語要素指導』（1962）」、「中央教育研究所『学習基本語彙』（1984）」、「国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』（1984）」を指す。

※「坂本」「新坂本」：A 1～A 3（小学校第 1～第 3 学年）、B 1～B 3（小学校第 4～第 6 学年）、C 1～C 3（中学校）、「田中」：①～⑥は学年、「池原」：1 A～3 B は重要度、「児言研」：小 A、小 B、中 A、中 B は、学習段階（小学校中学校）と重要度（A の方が重要）、「中央」：A（小学校低学年）B（小学校中学年）C（小学校高学年）「国研」：◎2071 語、○4033 語、◎の方がより基本的な語。（注 7）

上記の表 4 において、△の付いている語（「花環」「指環」「環（わ）」「尺（さし）」「短尺（たんざく）」）は、通常「環」「尺」を用いないことが多いと思われるので対象から外すことにしたい。次に示す語が対象となる。（注 8）

「悪循環、環境、環状、循環、循環器、尺（しゃく）、尺度、尺八、縮尺、巻き尺」

これらの語の内、「悪循環」「環状」「循環器」「尺」「尺度」「尺八」「縮尺」「巻き尺」は「坂本」「新坂本」のみに見られる語である。

ちなみに、これらの語の「BCCWJ」における、出現数は、「悪循環：347、環境：30661、環状：449、循環：2789、循環器：206、尺：756、尺度：756、尺八：259、縮尺：146、巻き尺：15」であった。

「坂本」「新坂本」以外の語彙集においても取り上げられている語としては、次の表 5 に示すように「環境」「循環」がある。とりわけ「環境」は、「児言研」「中央」「国研」にも取り上げられており、教育基本語彙性が極めて高いと考えられる。「新坂本」において、「C 1」（中学校低学年）となっているのは、「坂本」、「新坂本」の刊行年次である 1958 年、1984 年を考慮する必要がある。「児言研」（収録語数 1846）においては、「小 A」（特に大切な語彙）として、「中央」（収録語数 4336）では「C」（小学校高学年用）として挙げられている。また、「国研」（収録語数 6104 語）でも収録されている。

ただし、これらの語彙集には各々特徴があり、次のような点に留意しなければならない。

- ① 「坂本」は、最も語彙数も多く、選出過程も明確であるが、1958 年という古さに問題がある。収録語数 22500 (24740) (括弧内の数は、本論文で用いた『教育基本語彙の基本的研究―増補改訂版―』のデータに登録された数である。以下同じ。)
- ② 「新坂本」は、改訂の手順が記されていない。収録語数 19271 (22500)
- ③ 「田中」は小学校教国語教科書 7 冊における頻度によっている。収録語数 3469 (3456)
- ④ 「池原」は小学校教科書の 91 冊における頻度によっている。収録語数 3000 (2989)
- ⑤ 「児言研」は、「日常の使用で自然におぼえられる語彙ははぶき、」「思考や認識を活動させる表現・通達することができる語を。」という観点を導入。収録語数 1955 (1846)
- ⑥ 「中央」は、分類語彙表の語彙によって一定の基準と手順によって選定。収録語数 4322 (4336)
- ⑦ 「国研」は、分類語彙表の語彙を専門家によって選定。他と異なり、外国人のための日本語教育の教育基本語彙として作成。収録語数 6060 (6104)

表 5. 新旧「坂本」以外の語彙表にも掲載されている「環」を含む語とランク一覧

見出し	表記	坂本	新坂本	田中	池原	児言研	中央	国研
かんきょう	環境	C 1	C 1			小 A	C	○
じゅんかん	循環	B 1	B 1					○

5. 現行『小学校学習指導要領』に見られる「環」「尺」を含む重要語彙

「小学校学習指導要領」には、「環」を含む語が 38 例、「尺」を含む語は「尺」「尺八」の 2 例が見られた。「環」「尺」を含む語が指導要領でどのように扱われているのかを示すために一部を抜き出しておく。(() 内の教科等の名称及び は引用者)

【環境】

- ① 3 各学校においては、2 に示すねらいを踏まえ、例えば国際理解、情報、環境、福祉・健康などの横断的・総合的な課題、児童の興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題などについて、学校の実態に応じた学習活動を行うものとする。(総合的な時間の取り扱い)
- ② ア イについては、農家、工場、商店などの中から選択して取り上げること。その際、地域の生産活動を取り上げる場合には自然環境との関係について、販売を取り上げる場合には消費者としての工夫について、それぞれ触れるようにすること。(社会)
- ③ (1) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考えるようにする。(社会)
- ④ (4) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図その他の資料を活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。(社会)
- ⑤ イ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ (社会)
- ⑥ エ ウについては、我が国の国土保全等の観点から扱うようにし、森林資源の育成や保護に従事している人々の工夫や努力及び環境保全のための国民一人一人の協力の必要性に気付くよう配慮すること。(社会)
- ⑦ A 生物とその環境 (理科) は「B 物質とエネルギー」「C 地球と宇宙」
- ⑧ (1) 人及び他の動物を観察したり資料を活用したりして、呼吸、消化、排出及び循環の働きを調べ、人及び他の動物の体のつくりと働きについての考えをもつようにする。

- ⑨ (2) 動物や植物の生活を観察し、生物の養分のとり方を調べ、生物と「環境」とのかかわりについての考えをもつようにする。

ウ 生物は、食べ物、水及び空気を通して周囲の「環境」とかかわって生きていること。

- ⑩ (2) 生物、天気、川、土地などの指導については、野外に出掛け地域の自然に親しむ活動を多く取り入れるとともに、自然「環境」を大切にする心やよりよい「環境」をつくろうとする態度をもつようにすること。

- ⑪ ア 交通事故、学校生活の事故などによるけがの防止には、周囲の危険に気付いて、的確な判断の下に安全に行動することや「環境」を安全に整えることが必要であること。(体育)

- ⑫ ア 病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、「環境」がかかわりあって起こること。(体育)

- ⑬ (1) 自然の偉大さを知り、自然「環境」を大切にする。(道徳)

【尺八】

- ① イ 歌曲、室内楽の音楽、箏や「尺八」を含めた我が国の音楽、諸外国に伝わる音楽など、いろいろな種類の楽曲(音楽)

「環」は、「環境」を構成する際に使われる場合に使われるものが殆ど(38例中36例)である。「環境」以外には、「一環」「循環」が各々1例ずつ見られた。但し、これらの内「一環」は「理解に関する学習の一環としての外国語会話…」とあるように、教科の基本語彙といった性格を持つものではない。一方、「環」を含む語である「環境」は先に示したように、小学校で扱う内容の説明に幾度も登場している。また、それを扱う教科等も「総合的な時間」「社会」「理科」「体育」「道徳」と広い。小学校においてはすでに学習基本語彙として重要な位置を占めているものと考えられる。

一方、「尺」を含む語は「尺八」と「尺」の2例のみであった。また、そのうちの1例は学年で学ぶ漢字を羅列した「学年別配当漢字」として示されたものである。これを除くと、「尺」は「尺八」を構成する1例のみとなる。

「教科書コーパス語彙表」(田中 2011)のデータによると、小学校の教科書における、「環」を含む語は、「環」「環境」「環濠」の3語がみられ、各々の出現数は、「環」が3、「環境」が175(国語11、数学1、理科48、社会87、技術家庭9、芸術7、保体12、生活0)、「環濠」が2であった。(教科書では表外漢字にはルビが施される。)

「尺」「尺八」の出現数は、「教科書コーパス語彙表」(田中 2011)のデータによれば、曲尺(カネジャク)2、尺(シャク)4、尺蛾(シャクガ)2、尺八(シャクハチ)7、縮尺(シュクシャク)4、巻き尺(マキジャク)6である。

「尺八」は、「学習指導要領」では日本の伝統文化の継承から取り上げられている。ただ、「尺八」は楽器の名称であり、楽器の名称に含まれる漢字を「学習漢字」に加えることになると「箏」「琴」(「琴」「木琴」「鉄琴」)なども対象としなくてはならないことになる。「箏」は、画数も多く複雑な語形であり習得に困難が伴うとして排除しても、「琴」はそうとも言えない。仮に「尺八」が学習上重要な語彙であるとしても、仮名書き又はルビ付きが良いとする考え方も無視できないのではなかろうか。

6. 児童生徒の漢字の習得の実態(有元(2006)による)

有元(2006)では、文化庁が行った調査(1964～67)と有元らが2004年に行った調査(以下、各々「文化庁調査」「有元調査」と呼ぶことがある)との比較を行っている。

有元調査では、「環」を「書き」の正答率が高くなった漢字の代表的なものとして紹介している。そ

れによれば、「環」（「環境」）の正答率は、「文化庁調査」3.9%、「有元調査」59.9%で56%の上昇であったとのことである。また、「環」（「環境」）の「読み」の正答率は、「文化庁調査」71.0%、「有元調査」98.6%の27.6%上昇であったという。注目したいのは、その正答率が「書き」3.9%という極めて低い率からの上昇であり、その正答率上昇の高さである。正答率の高さは、現状においては学習上の負担にはならないことを示しているように思われる。なお、「環」が、「文化庁調査」時、「有元調査」時共に「学年別漢字表」に入っていなかったことは言うまでもない。

「尺」についても見ておこう。「尺」の「書き」（「三尺」）の正答率は、「文化庁調査」72.0%、「有元調査」57.8%、上昇率は－14.2%、「読み」（「三尺」）の正答率は、「文化庁調査」63.0%、「有元調査」6.5%、上昇率は－56.5%であるという。

なお、「有元調査」全体の正答率上昇の割合を見ると、「学習漢字」においては、「書き」は1.7%、「読み」は7.6%上昇、「非学習漢字」においては、「書き」は11.4%、「読み」は26.5%上昇しているとのことである。このことを考慮すると、正答率の低下はさらに大きなものになる。

7. まとめ（「環」「尺」の「学年別漢字配当表」漢字としての妥当性について）

出現頻度、出現頻度の変化、（教育基本語彙）造語力、教育基本語彙性（学習基本語彙性）を主たる観点として「尺」「環」を見てきた。その結果として、①出現頻度（「尺」：1616位／1945漢字中、「環」：435位／1945漢字中）、②出現頻度の増減（「環」1.61／1.41倍、「尺」1.11／1.41倍、③教育基本語彙造語力（「尺」を含む語は「坂本」「新坂本」のみ。「環境」は「坂本」「新坂本」の他、3種の語彙表に掲載。）、そして④「環」と「尺」の学習基本語彙性（「環境」と「尺」の指導要領に占める位置、）からすると、「尺」は「学年別配当表」外漢字とし、逆に「環」は「学年別漢字配当表」内漢字とすることが妥当と思われる。

しかし、「尺」に関して言えば、「尺」は他の漢字（駅－3年、釈－6年、訳－6年）の部位として用いられる事も多く、画数も少ないことから「学習漢字」として残してもそれほど負担にならないという指摘も無視できない。また、「尺」を構成要素とする「尺八」「縮尺」「尺度」を基本的な語彙であるとする見方もある。その意味では「環」を「学習漢字」とすべきという声に比べ「尺」は「学習漢字」から外すべきという声は小さくてもよいかもしれない。

おわりに

本論文では、「蚕」（丹保2011a）「甘」（丹保2011b）に続き、「尺」「環」を取り上げた。今後の課題としては、出現頻度が低く、かつ、造語力も低いと思われる「学習漢字」（「俵」「汽」「笛」「陞」「絹」「后」）や逆に出現頻度が高い「非学習漢字」（「彼」「込」「違」「施」「及」や「岡」「埼」「鹿」など）についても考えてみたいと思う。

【注1】2005年度の小中高全教科の教科書一種ずつ計144冊を対象としている。

【注2】「当用漢字別表」漢字の選定基準

— 略 — 負担の過重を避けることも、じゅうぶんに考えなければなりません。おのずから字数の制限が問題となってまいりました。— 略 — だれにも書けなければならない。したがってこれからの文字生活を営んでいこうとするものが、ぜひ学習しておかなければならないという条件を備えたものということになります。これだけでははっきりいたしませんから。

以下実例について申し上げます。

1 日常の社会生活に直接の関係をもち、一般国民に親しみの深いもの

ただし、形・音・義のむずかしいものや、当用漢字におけるかな書きの条項に触れるものは、この限りではありません。

例 数関係の 一二三四……万億

方位関係の 東西南北

季節関係の 春夏秋冬

行政区画に関する 都道府県郡市区町村

人倫に関する 父母子兄弟姉妹夫妻

衣食に関する 衣服絹綿糸飲食米麦穀飯粉

菜茶塩酒住家屋居室庭園門

戸柱板堂店宿舍

徳目に関する 仁義礼智信忠孝節誠恩愛

色彩の 青黄赤白黒緑

植物の 木草竹花葉根幹芽

動物の 犬牛馬鳥魚貝虫蚕

鉱物の 金銀銅鉄砂石炭など

2 熟語構成の力が強く、それが広い範囲に及んでいるもの

例 名 人名 氏名 名誉 名利

名称 名義 名人 名代

名刺 名流 名声

流 急流 清流 水流 一流 名流

上流 下流 流儀 流域 流用

流産 流線型 流動体

在 在職 在位 在庫 在宅 在外 在留

近在 不在 所在 現在

その他 最 極 細 要 不 用など

3 広く世に行われている平明な熟語の構成成分で、対照的意義を表わすそれぞれのもの

例 因果 公私 左右 上下 主客 内外

自他 前後 損益 往復 加減 始終

収支 出入 生死 勝負 断続 得失

売買 貸借 進退 遠近 寒暑 強弱

曲直 軽重 高低 新古 多少 大小

長短 異同など

次のような類の漢字がこの選定から除かれているかと申しますと、

1 時代主流から遠ざかっているもの 甲乙丙、尺貫法関係の漢字など

2 階属的のもの、局所的のもの

×× × × × × × × × ×

官庁 通信 勅語 詔書 妥 妥協 傑 豪傑 傑作

× × ×

典 古典 典型

× ×× ×

依 依存 依頼

3 専門用語にしか関係をもたないもの

学術用語、専門用語は平易な文字によるか、かな書きによることが望ましいが、要するに別の取扱とする。

俳句 謡曲 狂言 緯度 凍土 恐慌 窯業 など

(「当用漢字別表(教育漢字)」に関する主査委員長報告(安藤安次)(『国語審議会報告書6』より)

【注3】出現頻度は次の調査Aを基本としている。(「改定常用漢字表」による。)

	対象総漢字数	調査対象としたデータ
A 漢字出現頻度数調査(3) ※1	49,072,315	書籍 860 冊分の凸版組版データ
B 上記 A の第 2 部調査	3,290,795	A のうち教科書分の抽出データ
C 漢字出現頻度数調査(新聞) ※2	3,674,613	朝日新聞 2 か月分の紙面データ
D 漢字出現頻度数調査(新聞) ※2	3,428,829	読売新聞 2 か月分の紙面データ
E 漢字出現頻度数調査(ウェブサイト) ※3	1,390,997,102	ウェブサイト調査の抽出データ

※1 A の調査対象総文字数は「169,050,703」。また、B とは別に、第 3 部として月刊誌 4 誌の抽出調査も実施している。これらの組版データは、いずれも平成 16 年、17 年、18 年に凸版印刷が作成したものである。※2 C、D は、いずれも平成 18 年 10 月 1 日～11 月 30 日までの朝刊・夕刊の最終版を調査したデータである。※3 調査全体の漢字数は「3,128,388,952」。このうち「電子掲示板サイトにおける投稿本文」のデータを除いたもの。

【注4】「少納言」によって出現数を調べると異なった値が出る。この違いは「国会会議録」にのみ見られるようである。出現数の値は「少納言」による数値の方が小さい。しかし、これらの数値の相違は本研究の結論に大きな影響を与えるものではない。

【注5】漢字出現頻度上位 10 字は『現代日本語書き言葉均衡コーパス』をデータとしている。出現数の算出は、筆者作成のスクリプト(プログラム言語 Ruby 使用)による。

【注6】日本古来の度量衡法。：長さの単位を尺、容積の単位を升、質量の単位を貫とする。明治以降メートル法と併用されてきたが、昭和 34 年(1959)原則として廃止され、同 41(1966)年以後メートル法に統一された。(「デジタル大辞林」による。)

【注7】各教育基本語彙集について

以下の解説は、『教育基本語彙の基本的研究―増補改訂版―』の解説を要約したものである。

①阪本教育基本語彙(坂本)：阪本一郎『教育基本語彙』(牧書店、1958 年)掲載語彙。A(小学校第 1～第 3 学年)、B(小学校第 4～第 6 学年)、C(中学校)の 3 つに分けられ、さらにそれらに優先順位が付けられている。収録語数 22500(24740)括弧内の数は、本論文で用いた『教育基本語彙の基本的研究―増補改訂版―』のデータに登録された数である。(以下同じ。)

②新阪本教育基本語彙(新坂本)：阪本一郎『新教育基本語彙』(学芸図書、1984 年)掲載語彙。阪本教育基本語彙の改訂版。A、B、C 等の学習段階の表示は阪本教育基本語彙と同じである。収録語数 19271(22500)

A 1 : 3176 A 2 : 1937 B 1 : 2676 B 2 : 2140 B 3 : 1696

C 1 : 2517 C 2 : 2413 C 3 : 2179 C 4 : 2130

③田中教育基本語彙(田中)：田中久直『学習基本語彙』(新光閣書店、1956 年)掲載語彙。第 1～第 6 学年までの指導学年が定められている。収録語数 3469(3456)

- ④池原教育基本語彙（池原）：池原栢雄『国語教育のための基本語体系』（六月社，1957年）掲載語彙。小学校低学年（第1～第3学年）で指導する語彙が定められている。収録語数 3000（2989）
- ⑤児言研教育基本語彙（児言）：児童言語研究会『言語要素指導』（明治図書，1962年）掲載語彙。まず小学校と中学校の2つの指導段階に分け、さらにA（特に大切な語い）とB（A語に続くもの）の2つに分けている。収録語数 1955（1846）
- ⑥中央教育基本語彙（中央）：中央教育研究所『学習基本語彙』（中央教育研究所，1984年）掲載語彙。小学校用である。それぞれの語にA（第1・2学年）、B（第3・4学年）、C（第5・6学年）のどれかの指導段階が与えられている。収録語数 4322（4336）
- ⑦国語研教育基本語彙（国研）：国立国語研究所『日本語教育のための基本語彙調査』（秀英出版，1984年）掲載語彙。①～⑥の教育基本語彙と違って、外国人のための教育基本語彙として作成されたものである。収録語数 6060（6104）、そのうち 2030（2071）語が「より基本的な語」

【注 8】辞書に見られる「環」「尺」含む単語（複合語を含む）一覧

あくじゅんかん【悪循環】	おりじゃく【折り尺】【折尺】
いっかん【一環】	かねじゃく【曲尺】
えんかん【円環】	きじゃく【着尺】
かん【環】	きじゃくじ【着尺地】
かんかい【環海】	きょくしゃく【曲尺】
かんきょう【環境】	くしゃくにけん【九尺二間】
かんきょうあせすめんと【環境】	くじらじゃく【鯨尺】
かんきょうえいせい【環境衛生】	けいさんじゃく【計算尺】
かんきょうおせん【環境汚染】	けんじゃく【剣尺】
かんきょうけん【環境権】	けんじゃく【間尺】
かんきょうじょうけん【環境条件】	げんしゃく【現尺】
かんきょうちょう【環境庁】	さんじゃく【三尺】
かんけいどうぶつ【環形動物】	さんじゃくのしゅうすい【三尺の秋水】
かんし【環視】	さんじゃくのどうじ【三尺の童子】
かんしょう【環礁】	しせき【咫尺】
かんじょう【環状】	しゃく【尺】
かんじょうせん【環状線】	しゃくじめ【尺】
かんじょうれつせき【環状列石】	しゃくしん【尺進】
かんせつ【環節】	しゃくしんあつてすんたいなし【尺進あつて寸退無】
かんりゅう【還流】【環流】	しゃくすん【尺寸】
きんかん【金環】	しゃくち【尺地】
きんかんしょく【金環食】	しゃくど【尺度】
しずのおだまき【倭文の苧環】	しゃくとりむし【尺取り虫】【尺取虫】
じゅんかん【循環】	しゃくはち【尺八】
じゅんかんき【循環器】	しゃくよ【尺余】
じゅんかんせいきしつ【循環性気質】	しゃっかんほう【尺貫法】
じゅんかんろんほう【循環論法】	しゃっこつ【尺骨】
たまき【環】	しゅくしゃく【縮尺】
うらじゃく【裏尺】	

しょうしゃく【照尺】	ひゃくしゃくかんと【百尺竿頭】
しんどしゃく【身度尺】	まきじゃく【巻き尺】【卷尺】
すんしゃく【寸尺】	ましゃく【間尺】
すんぜんしゃくま【寸善尺魔】	やさかにのまがたま【八尺瓊勾玉】
すんたいしゃくしん【寸退尺進】	ゆびしゃく【指尺】
せきとく【尺牘】	ようしゃく【用尺】
ちょうしゃく【長尺】	れんじゃく【連尺】【連索】
なからはんじゃく【半半尺】	ろくしゃく【六尺】
なまはんじゃく【生半尺】	ろくしゃくふんどし【六尺褌】
はじゃく【端尺】	ろくしゃくぼう【六尺棒】

(『新明解国語辞典 第5版』より)

【引用・参考文献一覧】

- (1) 文部省・文化庁 (1952-2002)『国語審議会報告書』1~22
- (2) 文部省 (1957)『教育漢字の学年配当 (漢字学習指導実験調査報告)』教育出版株式会社
- (3) 小林一仁 (1978)「『教育漢字』再検討ノート」(『文藝言語研究・言語篇』第2巻 筑波大学文藝・言語学系)
- (4) 小林一仁 (1988)「教育漢字の歴史」(『漢字講座』12巻 明治書院)
- (5) 高梨信博 (1996)「小学校学年別配当漢字表の変遷」(『漢字百科大事典』佐藤喜代治他編 明治書院)
- (6) 大西拓一郎 (1996)「現代漢字使用頻度一覧」(『漢字百科大事典』佐藤喜代治他編 明治書院)
- (7) 浜本純逸 (1987)「教育基本語彙の選定」(『国語語彙史の研究八』和泉書院)
- (8) 加藤彰彦 (1990)「教育基本語」(『講座日本語と日本語教育 第7巻』明治書院)
- (9) 工藤真由美 (1999)『児童生徒に対する日本語教育のための基本語彙調査』ひつじ書房
- (10) 山本建雄 (2000)「漢字漢語の指導の研究—漢字学年別西己当表の成立過程を中心に—」(『長崎大学教育学部紀要・教科教育学』vol.35, p.17-30; 2000)
- (11) 有元秀人 (2006)「児童生徒の学習漢字と語彙の習得に関する基礎的研究」科学研究費補助金研究成果報告書
- (12) 篠崎桂子 (2006)「これからの時代に応じた教育漢字の研究—一字種、字訓とその学年配当を中心に—」(『全国大学国語教育学会発表要旨集 111』79-82 全国大学国語教育学会)
- (13) 文部省・文部科学省 (2008)『小学校学習指導要領』(2009年文部科学省告示、2011年施行)
- (14) 国立国語研究所 (2009)『教育基本語彙の基本的研究—増補改訂版—』明治書院
- (15) 内閣告示 (1981)「常用漢字表」(昭和56年10月1日)
- (16) 文化審議会 (2010)「改訂常用漢字表」(平成22年6月7日)文化審議会答申
- (17) 内閣告示 (2010)「常用漢字表」(平成22年11月30日)
- (18) バトラー後藤裕子 (2011)『学習漢字とは何か』三省堂

【言語資料一覧】

- (1) 国立国語研究所 (2009)『教育基本語彙の基本的研究—増補改訂版—』明治書院
- (2) 国立国語研究所 (2011)『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(DVD版)
検索は、筆者作成の簡易プログラム (プログラム言語 Ruby 使用) による。
インターネット検索 (「少納言」、「中納言」) も参照している。
- (3) 朝日新聞 1985~2011年 (『聞蔵Ⅱ』朝日新聞記事検索サービス)
- (4) 田中牧郎・代表 (2011)「教科書コーパス語彙表」(『特定領域研究 代表田中牧郎「日本語コーパス 言語政策班 最終成果」CD-ROM (報告書、語彙表、漢字表)』)
- (5) 金田一春彦、他 (1999)『新明解国語辞典』第5版 (CDROM)